

◎ 河北新報の伝承・啓発プロジェクト

①むすび塾

- ・2012年開始の巡回ワークショップ
- ・月1回で通算69回、月命日に詳報
- ・反省基に「呼び掛け」→「働き掛け」
- ・地方紙共催で全国へ展開、継続
- ・時間経過により、さらに意義増す



②みやき防災・減災円卓会議

- ・产学研官民、報道機関の連携組織
- ・2015年発足、81団体160人
- ・月1回例会、河北が事務局
- ・拠点組織立ち上げなどアピール
- ・新聞社のコーディネート機能発揮

③新規3.1「伝える／備える」次世代塾

卷之三

東日本大震災に向き合う通年講座

次世代塾 伝える/備える

高校・大学生、若手社会人の受講者募集中！

「あの、何が起きたのか？」「あすにつながらない教訓は何か？」—。学部・仙台で始まります。
当事業の特徴をベースに学ぶ4年講座が2017年春開講です。—。仙台・新潟・東京・札幌へモバイル

河北新報データベースを無償提供
河北新報の過去記事30万件以上が検索可能



震災の悲しみ追体験

仙台・石巻埋葬現場など視察

習者を教うたが、何處か指す音見月也 指主音教を
が画した「3-1 ほき／かき」音母鑑の第2回講座が2回、
元妻・山宮由加江さんは、大正2年の講師等のつぶやき。講義は各

を失う事で、あたしの心は悲しくなります。でも、お母さん、お父さんは、おまかせです。

いのちと
地域を

守名

心事では、舞妓の多さからつぶやく人が多い

に運搬を仮埋葬（土葬）する。この手の作業は、いわゆる要介護者（痴呆症や精神障害者など）の看護で、専門性の高い仕事だ。

等に携わった経営者「三
記」(仙台市)の門下

農務部長(44)が「選体の
敵を守るために職業意識

持つて来たんだ
が刻まれた。

当時の経験を踏まえ、
村さんは災害への備え

高田大輔の新作
「物語」を解説
吉川ひでる

仙台市宮城野区病院
北千住二丁、北支店

がりでござつた。其を
群衆のための具体的
な問題や法律を進むこと
に因る事(おもに階級)。
「十四回は通じたが今度は
行文が明瞭でなく、實は
はまだわざわざしなじこ
に因る事(おもに階級)。
多難の上半生は官公署に
勤務して公務を始めた
たる性質(主張)を学んで
して法律の努力は畢竟
地区の知識で、徳性で
をもつて、運営を中止した。
延べ三月遅れで、西
北地方の東北地方不
同年秋に東北地方へ渡
て初めて訪れた北海道と被災
した北海道大雪災害に因る事
で、北海道を離れて了
しと見えた。

HOKU SHIMPO PUBLISHING CO.

◎ 次世代塾の「趣意書」

東日本大震災の風化を防ぎ、震災教訓の伝承と防災啓発の発信をこの先10年、20年と継続していくためには、次世代への働き掛け、若者の主体的な関わりが欠かせない。被災地の知見に基づいて、震災教訓の伝承、防災啓発の先頭に立つ若者を継続的に育成することは、被災地にとつて必須の課題であり、南海トラフ巨大地震などに備える全国、世界の要請にも応えるテーマである。

教訓伝承と啓発に責務を負う報道機関、大学、自治体と、啓発推進に関わる関係団体が協力し、被災地仙台で学ぶ学生を主な対象とした講座を開設・運営することにより、震災伝承と防災啓発のために働く「伝える」「備える」の担い手人材を育て、被災地をはじめとした地元宮城、東北、さらには全国、世界に向けて、継続的に送り出すことを目指す。

◎ 次世代塾の基本設計

- ・開催地 東北福祉大仙台駅東口キャンパス
(ほか被災地視察先)
- ・開催日時 4月開講／3月修了の年間講座
毎月第3土曜日の午前を基本に開講
- ・対象 大学生中心に10代後半から20代前半まで
- ・規模 30人募集(50人程度まで対応)
年間15コマ
- ・カリキュラム 今村文彦東北大災害科学国際研究所所長
船渡忠、男東北福祉大防災士協議会会長
- ・監修 基本無料(視察などで実費負担の場合あり)
- ・協議会会長名で「修了証」を交付
(2年修了もあり)
- ・受講料 内容と受講生の感想を河北新報紙面で詳報
- ・修了認定 修了者名簿「次世代塾バングク」を作り、継続交流
- ・その他

◎運営の枠組み

- ◎名称
311次世代塾推進協議会（会長・一力雅彦社長）
- ◎構成団体
河北新報社、東北福祉大、仙台市（**三者協定当事者**）
東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工業大
宮城学院女子大、尚絅学院大（**協力大学**）
学都仙台コソーシアム（**連携団体**）
日本損害保険協会、みちのく創生支援機構（**協賛団体**）
- ◎運営
任意組織として、河北新報社が責任主体となり、費用負担などの中軸になる三者協定当事者との調整、協力・連携する構成団体との協議を経て、運営に当たることとする。
詳細は「運営委員会」（構成団体実務担当者の会議）を適宜開催し、決定していく。

311 伝える／備える 次世代塾 受講生内訳

2017年8月3日

【2017年度 受講生： 114 名】

【男女別】	人数	割合
男性	39	34.2%
女性	75	65.8%
合計	114	100.0%

【地域別】	人数	割合
宮城県内	102	89.5%
隣県（岩手・山形・福島）	6	5.3%
青森、秋田、他県	4	3.5%
その他（途中留学など）	2	1.8%
合計	114	100.0%

【職業別】	人数	割合
学生	87	76.3%
	大学生	79
	大学生メンター	7
	大学院生	1
社会人	27	23.7%
	河北新報社	10
	その他法人、団体	17
合計	114	100.0%

※大学生メンター：受講生と運営スタッフの両方を担う。

【学年内訳】	人数	割合
1年	1	0.9%
2年	25	21.9%
3年	36	31.6%
4年	24	21.1%
大学院生	1	0.9%
社会人	27	23.7%
合計	114	100.0%

【大学内訳】	人数	割合
東北福祉大学	48	55.2%
宮城教育大学	13	14.9%
尚絅学院大学	9	10.3%
東北大	4	4.6%
宮城学院女子大学	3	3.4%
東北工業大学	3	3.4%
東北学院大学	1	1.1%
東北医科薬科大学	1	1.1%
石巻専修大学	1	1.1%
山形大学	1	1.1%
慶應義塾大学	1	1.1%
上智大学	1	1.1%
東海大学	1	1.1%
合計	87	100.0%

【社会人の主な勤務先】※順不同
総務省 東北管区行政評価局
日本損害保険協会
宮城県 職員
石巻市 職員
東松島市 職員
東北電力
アイリスオーヤマ
南東北福山通運
河北新報社
尚絅学院大学 職員
福島大学 職員
他

311「伝える／備える」次世代塾 日程案

フェーズと テーマ	回	開催日	内容	講演内容	
				①	②
プロローグ					
オリエン テーション	1	4月15日	趣旨説明／グループ編成／グループ討議「自分にとっての震災」		
発生直後					
向き合う 【いのち】	2	5月20日	犠牲の現場 (※1) ■石巻市方面視察	遺体収容・葬送の実相	弔い 被災地住職の証言
	3	6月17日	捜索と救命	行方不明者捜索の現場	救急救命の最前線
	4	7月15日	避難の明暗①	犠牲回避の現場	犠牲多数の現場
	5	8月5日	避難の明暗②	防災訓練生きた事業所	高齢者施設の悲劇
	6	8月19日	メカニズム／被災総括とがれき処理／津波訴訟総括		
復旧期					
向き合う 【つながり】	7	9月2日	避難所の苦闘	混乱の現場	女性の視点
	8	9月16日	ボランティアの力	復旧段階 がれき撤去の勝手連	復興段階 息長く地域づくり
	9	10月14日	遺族その後 (※1) ■石巒市方面視察	悲嘆ケアの取り組み	語り部活動
考える	10	11月18日	通信と安否確認／要援護者支援の課題／インフラの復旧・復興		
復興期					
向き合う 【暮らし】	11	12月16日	生活再建	仮設住宅の暮らし	二重ローンと住宅再建
	12	1月20日	なりわい再生 (※1) ■東松島、石巒市方面視察	漁業者の復興	企業の再建
	13	2月3日	子どもの未来	学習支援	遺児に寄り添う
考える	14	2月17日	災害法制の課題／保険を中心とした民間の支援の仕組み／防災教育の現状と未来		
エピローグ					
総括	15	3月17日	グループ発表・講評／修了認定証交付		
【備考】					
(※1) …現地視察予定日					
・9～11月に仙台市内各地で地域防災訓練があり、見学・体験するオプション講座も検討					